



S3X60 サーバノードハードウェア管理

- Cisco UCS S3260 サーバノードの管理 (2 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードのブート (2 ページ)
- サービス プロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバのブート (2 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードのブート順序の決定 (3 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードのシャットダウン (4 ページ)
- サービス プロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバノードのシャットダウン (4 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードのリセット (5 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット (6 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードの再認識 (7 ページ)
- シャーシからの Cisco UCS S3260 サーバノードの削除 (8 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードからのインバンド設定の削除 (8 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードの稼働停止 (9 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードの再稼働 (9 ページ)
- サーバスロットの再認識 S3260 シャーシ (10 ページ)
- 存在しない Cisco UCS S3260 サーバノードの設定データベースからの削除 (10 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードのロケータ LED のオン/オフ切り替え (11 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードのローカルディスク ロケータ LED のオン/オフ切り替え (11 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC のリセット (12 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードの CMOS のリセット (13 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードからの NMI の発行 (13 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードの POST 結果の表示 (14 ページ)
- Cisco UCS S3260 サーバノードのヘルス イベントの表示 (14 ページ)
- ヘルス LED アラーム (16 ページ)

Cisco UCS S3260 サーバノードの管理

Cisco UCS Managerを使用して、Cisco UCS ドメインのCisco UCS S3260サーバノードすべてを管理およびモニタできます。電源状態の変更など一部のサーバ管理タスクは、サーバおよびサービスプロファイルから実行できます。

残りの管理タスクは、サーバ上でだけ実行できます。

シャーシ内のサーバスロットが空の場合、そのスロットに関する情報、エラー、および障害がCisco UCS Manager から提供されます。サーバミスマッチエラーを解決し、そのスロット内のサーバを再検出するために、スロットを再認識させることもできます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのブート

[Actions] 領域で [Boot Server] リンクがグレー表示されている場合は、まず、サーバをシャットダウンする必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
 - ステップ 3 ブートするサーバを選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域の [Boot Server] をクリックします。
 - ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
-

サーバがブートされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [OK] ステータスが表示されます。

サービスプロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバのブート

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ 2 [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。

ステップ 3 サービス プロファイルを作成する組織、または適切なサービス プロファイルが含まれている組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。

ステップ 4 関連付けられたサーバをブートする必要があるサービス プロファイルを選択します。

ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域の [Boot Server] をクリックします。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ 8 [Boot Server] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

サーバがブートした後は、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [ok] ステータスまたは [up] ステータスが表示されます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのブート順序の決定



ヒント サーバに関連付けられているサービス プロファイルの [General] タブからもブート順序タブを表示できます。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 ブート順序を決定するサーバをクリックします。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Boot Order Details] 領域が展開されていない場合は、見出しの右側の [Expand] アイコンをクリックします。

ステップ 6 サーバに割り当てられているブート順序を表示するには、[Configured Boot Order] タブをクリックします。

ステップ 7 物理サーバ構成内のさまざまなデバイスから何がブートされるかを表示するには、[Actual Boot Order] タブをクリックします。

Cisco UCS S3260 サーバノードのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフルシャットダウンシーケンスがトリガーされます。

[Actions] 領域の [Shutdown Server] リンクがグレー表示されている場合、そのサーバは動作していません。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 シャットダウンするサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
- ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

サーバが正常にシャットダウンされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに電源オフ状態が表示されます。

サービスプロファイルからの Cisco UCS S3260 サーバノードのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフルシャットダウンシーケンスがトリガーされます。

[Actions] 領域の [Shutdown Server] リンクがグレー表示されている場合、そのサーバは動作していません。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ 2 [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。
- ステップ 3 関連付けられているサービスプロファイルを含む組織のノードを展開します。
- ステップ 4 シャットダウンするサーバと関連付けられたサービスプロファイルを選択します。
- ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 6 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。

ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

サーバが正常にシャットダウンされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [down] ステータスまたは [power-off] ステータスが表示されます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのリセット

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセットライン上にパルスが送信されます。オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを選択することができます。オペレーティングシステムがグレースフルシャットダウンをサポートしていない場合は、サーバの電源を切ってから入れ直します。サーバをリセットする前に、Cisco UCS Manager にすべての管理操作を完了させるオプションでは、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。



(注) 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[Reset] を使用しないでください。

この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[Cancel] をクリックし、[Boot Server] アクションを選択します。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 リセットするサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で [Reset] をクリックします。

ステップ 6 [Reset Server] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- [Power Cycle] オプションをクリックします。
- (任意) このサーバの保留中の管理操作を Cisco UCS Manager によってすべて完了させる場合は、チェックボックスをオンにします。
- [OK] をクリックします。

リセットが完了するまでに数分かかる場合があります。サーバがリセットされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに OK ステータスが表示されます。

Cisco UCS S3260 サーバノードの出荷時のデフォルト設定へのリセット

Cisco UCS S3260 サーバノードを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージドライブに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。

次のガイドラインは、スクラブポリシーを使用する場合に Cisco UCS S3260 サーバノードに適用されます。

- Cisco UCS S3260 サーバノードでは、スクラブポリシーを使用してストレージを削除することはできません。
- Cisco UCS S3260 サーバノードでは、FlexFlash ドライブはサポートされていません。
- Cisco UCS S3260 サーバノードで行える操作は、スクラブポリシーを使用した BIOS のリセットのみです。



重要 ストレージデバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 出荷時のデフォルト設定にリセットするサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。

ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [Reset to Factory Default] をクリックします。
- b) [OK] をクリックします。

ステップ 7 表示される [Maintenance Server] ダイアログボックスから適切なオプションを選択します。

- すべてのストレージを削除するには、[Scrub Storage] チェックボックスを選択します。

(注) Cisco UCS S3260 サーバノードでは、スクラブポリシーを使用してストレージを削除することはできません。

- すべてのストレージを削除してからすべてのディスクを初期状態に戻すには、[Create Initial Volumes] チェックボックスを選択します。

[Scrub Storage] チェックボックスを選択した場合のみ、このチェックボックスを選択できます。JBOD をサポートするサーバの場合、ディスクは JBOD 状態になります。JBOD をサポートしないサーバの場合、各ディスクはディスク内のすべての領域を占有する単一 R0 ボリュームで初期化されます。

重要 ストレージプロファイルを使用するには、[Create Initial Volumes] ボックスを選択しないでください。ストレージプロファイルを使用しているときに初期ボリュームを作成すると、設定エラーが発生する可能性があります。

Cisco UCS Manager サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットします。

Cisco UCS S3260 サーバノードの再認識

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出する必要がある場合は、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスクバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

手順

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
 - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
 - ステップ 3 再確認するサーバを選択します。
 - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
 - ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
 - ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、[Re-acknowledge] をクリックし、次に [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager はサーバを切断し、その後、サーバとシステム内の 1 つまたは複数のファブリックインターコネクタとの接続を確立します。確認が終了するまでに数分かかる場合があります。サーバが確認されると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに OK ステータスが表示されます。

シャーシからの Cisco UCS S3260 サーバノードの削除

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 シャーシから削除するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
- ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、[Decommission] をクリックし、[OK] をクリックします。
サーバが Cisco UCS 構成から削除されます。
- ステップ 7 シャーシの物理的な配置場所で、スロットからサーバハードウェアを取り外します。
サーバハードウェアの取り外し方法については、お使いのシャーシの『*Cisco UCS Hardware Installation Guide*』を参照してください。
-

次のタスク

サーバを物理的に取り付けなおす場合は、スロットを再認識して、Cisco UCS Manager にこのサーバを再検出させる必要があります。

Cisco UCS S3260 サーバノードからのインバンド設定の削除

この手順では、ブレードサーバからインバンド管理 IP アドレスの設定を削除します。このアクションがグレー表示されている場合、インバンド設定は完了していません。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] > [Server Name] の順に展開します。
- ステップ 3 [Work] 領域の [Inventory] タブをクリックします。
- ステップ 4 [CIMC] サブタブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Delete Inband Configuration] をクリックします。
- ステップ 6 [Delete] の確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。

サーバのインバンド設定が削除されます。

- (注) Cisco UCS Manager でインバンド サービス プロファイルがデフォルト VLAN とプール名で設定されている場合、ここでインバンド設定を削除した約1分後、サーバCIMCが自動的にインバンドプロファイルからインバンド設定を取得します。

Cisco UCS S3260 サーバノードの稼働停止

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 稼働を停止するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
- ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) [Decommission] をクリックします。
 - b) [OK] をクリックします。

サーバが Cisco UCS構成から削除されます。

次のタスク

サーバを物理的に取り付けなおす場合は、Cisco UCS Manager にスロットを再認識させ、そのサーバを再検出させる必要があります。

Cisco UCS S3260 サーバノードの再稼働

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Chassis] ノードをクリックします。
- ステップ 3 [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。
- ステップ 4 再稼働する各サーバの行で、[Recommission] カラムのチェックボックスをオンにしてから、[Save Changes] をクリックします。

ステップ5 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

ステップ6 (任意) サーバの再稼働と検出の進行状況を、そのサーバの [FSM] タブでモニタします。

サーバスロットの再認識 S3260 シャーシ

物理ハードウェアをシャーシから取り外さずにサーバの稼働を中止した場合、Cisco UCS Manager にサーバを再検出させ、再認識させるには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ3 スロットを再確認するサーバを選択します。

ステップ4 Cisco UCS Manager に [Resolve Slot Issue] ダイアログボックスが表示された場合は、次のいずれかの手順を実行します。

オプション	説明
[Situation] 領域の [here] リンク	このリンクをクリックして、確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。Cisco UCS Manager がスロットを再認識し、スロット内のサーバを検出します。
OK	[General] タブに移動するには、このボタンをクリックします。 [Actions] 領域の [Reacknowledge Slot] リンクを使用すると、Cisco UCS Manager でスロットを再確認し、スロット内のサーバを検出できます。

存在しない Cisco UCS S3260 サーバノードの設定データベースからの削除

サーバを解放せずにサーバハードウェアを物理的に外した場合は、次の手順を実行します。サーバが物理的に存在する場合はこの手順を実行できません。

サーバを物理的に削除するには、[シャーシからの Cisco UCS S3260 サーバノードの削除 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 設定データベースから削除するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
- ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、[Remove] をクリックし、[OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager は、設定データベースからそのサーバに関するすべてのデータを削除します。サーバスロットは、新しいサーバハードウェアの挿入に使用できます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのロケータ LED のオン/オフ切り替え

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 ロケータ LED のオン/オフを切り替えるサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、次のいずれかをクリックします。

- [Turn on Locator LED] : 選択したサーバの LED を点灯します。
 - [Turn off Locator LED] : 選択したサーバの LED を消灯します。
-

Cisco UCS S3260 サーバノードのローカルディスクロケータ LED のオン/オフ切り替え

始める前に

- ディスクがゾーン分割されていることを確認します。ゾーン分割されていないディスクでは、ロケータ LED のオンおよびオフはできません。

- ディスクが配置されるサーバの電源が投入されていることを確認します。サーバがオフの場合、ローカルディスクのロケータ LED のオン/オフを切り替えることはできません。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 ローカルディスクのロケータ LED のオン/オフを切り替えるサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[Inventory] > [Storage] > [Disks] タブの順にクリックします。
ストレージコントローラ インベントリが表示されます。
- ステップ 5 ディスクをクリックします。
ディスクの詳細が表示されます。
- ステップ 6 [Details] 領域で、[Toggle Locator LED] をクリックします。
[Locator LED] の状態が [On] の場合は、[Off] に切り替わります。[Locator LED] の状態が [Off] の場合は、[On] に切り替わります。
- ステップ 7 [Save Changes] をクリックします。
-

Cisco UCS S3260 サーバノードの CIMC のリセット

ファームウェアの場合、サーバのトラブルシューティング時に、CIMC のリセットが必要になることがあります。CIMC のリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMC のリセット後、CIMC は、そのサーバで実行中のバージョンのファームウェアを使ってリブートします。

CIMC をリセットすると、CIMC がリブートするまで、Cisco UCS の電力モニタリング機能が短時間使用不能になります。通常は 20 秒しかかかりませんが、その間にピーク電力制限を超える可能性があります。低い電力制限が設定された環境で、設定された電力キャップを超えないようにするには、CIMC のリブートまたはアクティブ化を交互に実施することを検討してください。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 CIMC をリセットするサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。

- ステップ 6 [Recover Server] ダイアログボックスで、[Reset CIMC (Server Controller)] をクリックし、[OK] をクリックします。

Cisco UCS S3260 サーバノードの CMOS のリセット

場合によっては、サーバのトラブルシューティング時に、CMOSのリセットが必要になることがあります。CMOSのリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

手順

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 CMOS をリセットするサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
- ステップ 6 [Recover Server] ダイアログボックスで、[Reset CMOS] をクリックし、[OK] をクリックします。

Cisco UCS S3260 サーバノードからの NMI の発行

システムが応答しないままになっており、Cisco UCS Manager で、CIMC から BIOS またはオペレーティングシステムに NMI（マスク不能割り込み）を発行する必要がある場合は、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

手順

-
- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 NMI を発行するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
- ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
- [Diagnostic Interrupt] をクリックします。
 - [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager BIOS またはオペレーティング システムに NMI を送信します。

Cisco UCS S3260 サーバノードの POST 結果の表示

サーバとそのアダプタに対する Power On Self-Test プロセスで収集された任意のエラーを表示できます。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 POST の結果を表示するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で [View POST Results] をクリックします。
[POST Results] ダイアログボックスに、サーバとそのアダプタに対する POST の結果が一覧表示されます。
- ステップ 6 (任意) アダプタのプロパティを表示するには、[Affected Object] カラムをクリックします。
- ステップ 7 [OK] をクリックして [POST Results] ダイアログボックスを閉じます。

Cisco UCS S3260 サーバノードのヘルス イベントの表示

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 ヘルス イベントを表示するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[Health] タブをクリックします。
このサーバでトリガーされたヘルスイベントが表示されます。このタブのフィールドは次のとおりです。

名前	説明
[Health Summary] 領域	

名前	説明
[Health Qualifier] フィールド	コンポーネントに対してトリガーされるすべてのヘルスイベントのカンマ区切りの名前。
[Health Severity] フィールド	<p>コンポーネントに対してトリガーされるすべてのステータスイベントの最高重大度。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • critical • major • minor • warning • info • cleared <p>(注) 重大度レベルが最高のものから順に記載されています。</p>
[Health Details] 領域	
[Severity] カラム	<p>ヘルスイベントの重大度。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • critical • major • minor • warning • info • cleared <p>(注) 重大度レベルが最高のものから順に記載されています。</p>
[Name] カラム	ヘルスイベントの名前。
[Description] カラム	ヘルスイベントの詳細。
[Value] カラム	ヘルスイベントの現在の値。

名前	説明
[Details] 領域	[Details] 領域には、[Health Details] 領域で選択するヘルス イベントの [Name]、[Description]、[Severity] および [Value] の詳細が表示されます。

ヘルス LED アラーム

サーバのヘルス LED は各サーバの前面にあります。Cisco UCS Manager ではセンサー故障が発生すると、ブレードのヘルス LED の色が緑からオレンジ、またはオレンジの点滅に変わります。

ヘルス LED アラームには次の情報が表示されます。

名前	説明
[Severity] カラム	アラームの重大度。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> 重要：サーバのステータス LED がオレンジ色に点滅します。これは赤色のドットで示されます。 マイナー：サーバのステータス LED がオレンジ色です。これはオレンジ色のドットで示されます。
[Description] カラム	アラームの簡単な説明。
[センサー ID (Sensor ID)] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの ID。
[Sensor Name] カラム	アラームをトリガーしたセンサーの名前。

ヘルス LED アラームの表示

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 ヘルス LED アラームを表示する対象のサーバをクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[View Health LED Alarms] をクリックします。

[View Health LED Alarms] ダイアログボックスに、選択したサーバのヘルス LED アラームが一覧表示されます。

ステップ 6 [OK] をクリックして、[View Health LED Alarms] ダイアログボックスを閉じます。
